

## 〔作物〕

## 水 稻 新 品 種「あそみのり」について

杉谷久任・田嶋修治・西山台司・松本峯士  
 \*岡田正憲・\*西山 寿・\*本村弘美・\*志村英二  
 (熊本県農業試験場 \*九州農業試験場)

SUGITANI, H., TAZIMA, S., NISIYAMA, T., MATUMOTO, T.,  
 OKADA, M., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H. and SHIMURA, E.,  
 A New Rice Cultiver "ASOMINORI"

かねて配付試作中の水稻西海128号は昭和48年から福岡県で準奨励品種に熊本・長崎の両県で認定品種に採用され、通称名を「あそみのり」として普及に移されたので、その育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種に直接従事したのは筆者らおよび青木宗雄・鍛冶原俊夫・古山覚・小林研三・和佐野喜久生・甲斐俊二郎・今井隆典であるが、関係各府県農業試験場・支場・分場・試験地の係官の協力によるところが大きく、ここに深甚の謝意を表したい。

## 1. 来歴ならびに育成経過

昭和38年農林省九州農業試験場において、「西海85号×西海59号」のF<sub>1</sub>を母とし、「幸風」を父として人工交配を行ない。その後昭和41年まで集団育種法により世代促進をはかった。昭和42年(F<sub>7</sub>)以降は熊本県農業試験場阿蘇分場に移して固定度検定試験を実施し、昭和43年から生産力検定試験、昭和44年から特性検定ならびに系統適性検定試験を実施した。その結果、成績良好であった。

第1表 あそみのりの一般的特性

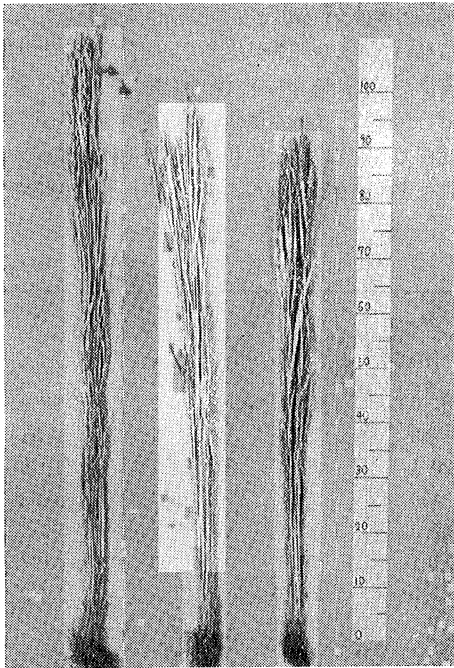
形 質	熊本県農試阿蘇分場			九州農業試験場		
	あそみのり	(比)ヤエホ	(比)日本晴	あそみのり	(比)黄金錦	(比)金南風
出 穂 期 (月・日)	8.24	8.23	8.16	8.31	9. 2	9. 2
稈 長 (cm)	82	99	82	78	94	84
穂 長 (cm)	21.2	21.0	20.1	21.2	20.7	19.9
穂 数 (本/m <sup>2</sup> )	399	396	400	334	304	362
玄 米 重 (kg/a)	59.6	56.7	57.3	54.6	53.5	57.3
同 上 収 量 比 (%)	105	100	101	102	100	107
玄米千粒重 (g)	23.3	22.3	21.9	25.0	21.4	22.9
玄 米 品 質	4	5	4	4	3	5
食 味	良	良	良	良	良	やや良
早 晩 性	早生の晩	早生の晩	早 生	早 生	早生の晩	早生の晩
草 型	短稈・偏穂数型	長稈・偏穂重型	短稈・穂数型	短稈・穂数型	長稈・穂重型	短稈・穂数型
芒 の 多 少 ・ 長 短	無	無	稀・短	無	無	稀・短
ふ 先 色	白	白	白	白	白	白
脱 粒 性	難	難	難	難	難	中
耐 倒 伏 性	強	弱	やや強	強	中	中
葉 い も ち 病 耐 病 性	中	やや弱	中	中の強	中	やや弱
穂 首 い も ち 病 耐 病 性	やや強	やや強	中	やや強	やや強	中
白 葉 枯 病 耐 病 性 (I型)	強	やや強	やや弱	強	弱	弱
〃 (II型)	やや強	弱	弱	やや強	弱	弱

- 注) 1. 熊本農試阿蘇分場は昭和44年～47年の4ヵ年平均値(多肥)。  
 2. 九州農試は昭和45, 46年の2ヵ年平均値(多肥)。  
 3. 玄米品質は数値の小さいほど良いことを示す。

たので、昭和45年 (F<sub>10</sub>) より「西海 128 号」の系統名で関係県に配付し、地方適否を検討してきたもので、昭和48年世代は F<sub>13</sub> にあたる。

## 2. 特性の概要

(1)形態的特性 稈長は日本晴と同程度〜わずかに高いやや短稈偏穂数中間型で、穂長は比較的長い。稈の太さはやや細く止葉は直立し、熟色は良く、脱粒は難である。芒はほとんどなく、ふ先色は白、粒着は中〜やや疎である。玄米の形は中の長で、粒の大きさはやや大粒であり千粒重も重く銚色を呈している。心白はほとんどなく腹白もきわめて少ない。品質は黄金錦まではいかないが、日本晴と同等以上でかなり良い。食味についても品質と同様の傾向を示し、かなり良い。



〈左よりヤエホ, あそみのり, 日本晴〉

(2)生態的特性 出穂、成熟期は金南風、黄金錦より1〜2日早く、ヤエホと同程度である。九州北半では早生の晩に属する粳種である。やや短稈のため倒伏には強く、ヤエホ、金南風にまさる。葉いもち病、穂首いもち病にはやや強く、白葉枯病のI型菌には黄玉程度に強く、II

型菌についても日本稻の中ではかなり強い。紋枯病にもやや強く、縞葉枯病には弱い。生産力は早生としては多収である。

## 3. 適地および奨励品種採用県

本品種は昭和45年から3ヵ年にわたって関係県に配付され地方適否が検討されたが、昭和48年度から福岡県で準奨励品種に、長崎・熊本両県で認定品種に採用され普及に移されることになった。熟期、および生育特性からみて、九州北半では中山間高冷地 (500m 以下) に適すると思われる。近年、3県ともに白葉枯病の発生が多く、また倒伏に難点のある品種がかなり栽培されており、減収と品質の劣悪化をまねいている。なお、レイハウと日本晴の作付が大部分を占めているが、作付体系 (タバコ、イグサ、野菜跡など) あるいは、労働配分、大型機械化の適用幅の拡大などの点で両品種の中間にあたる品種が強く要望されている。現在、この熟期にあたる品種はサチミドリ、金南風、黄金錦、ヤエホなどであるが、いずれも白葉枯病に弱い。「あそみのり」はこれらに代替しうる品種として中山間高冷地および平地の一部に導入されつつある。

## 4. 栽培上の注意

一株穂数がやや少ないので、栽植密度や施肥により、単位面積当りの穂数確保に留意すれば多収が期待できる。熟期がヤエホと同程度でやや遅いため、特に高冷地帯の稚苗移植栽培は年によっては秋冷が早く、出穂、成熟期が遅れ、品質、収量を悪くする場合があるので早植を励行する。本品種の熟期の点で、クロカメムシに対する予防駆除については十分な対策が望まれる。縞葉枯病に対しては弱点をもっているため、特にその媒介虫の発生に注意し、予防対策が望まれる。品種の特性を生かし、品質の向上をはかるために、適期刈取り、乾燥調製に留意する。

## 5. 命名の由来

“阿蘇稔”を意味する。主として阿蘇のきびしい環境条件の中で選抜、育成がなされ、白葉枯病にきわめて強く、その他の形質も優れ、秋の熟色もよいことから「あそみのり」と命名された。